

幼児の実態(幼稚園内)

- ・体を動かして遊ぶことが好きな幼児が多い。
- ・運動遊びにあまり興味がなく、自分から取り組まない幼児もいる。遊び方が分かると取り組む幼児もいる。
- ・何もないところで転ぶ、物や人によくぶつかる、転んだ時に手が付けない、動きがぎこちないなどの姿が見られる。

幼児の実態(家庭・地域)

- ・幼児の80%がマンションに住んでいる。
- ・交通の便が良く、子ども向けの公園が少ない。
- ・幼稚園以外では、57%の幼児が平日1日あたり平均30分～1時間「歩く」経験をしている。24%が1日30分以下である。
- ・年少では50%の幼児が体を動かす習い事に通っており、年中に進級すると同時に88%の幼児が体を動かす習い事に通い始めている。
- ・平日に親子で体を動かして遊ぶ時間が年少は30分～1時間が45%だが、年長になると10%に急減する。

国・都・区の施策

- ・文科省「幼児期運動指針」(h24.3)
- ・文科省「幼児期の運動に関する指導参考資料」(h27.3)
- ・東京都「東京都教育ビジョン(第3次・一部改訂)」(h28.4)
- ・東京都「アクティブプランto2020」総合的な子供の基礎的体力向上方策(第三次推進計画)」(h28.1)
- ・中央区「改訂中央区教育振興基本計画」(h27.3)



教 師 の 願 い

- 園生活の中で楽しみながら、多様な体の動きを経験し、自分の体をコントロールする身のこなしや巧みさを身に付けてほしい。
- 遊びや生活の中で思わず体が動く経験をすることで、人や物と関わる楽しさを感じ、意欲を高めてほしい。
- 「やってみたらできた」という嬉しさを感じ、自分に自信をもてるようになってほしい。



教 育 目 標

元気な子ども 考える子ども やさしい子ども



研 究 主 題

多様な動きを楽しく経験するための指導の工夫 ～コーディネーショントレーニングを活用して～

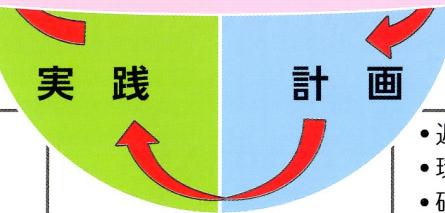
研究の方法

- ・日々の幼児及び指導の記録 → 客観的な振り返り(成果と課題の明確化) → 具体的な改善の手立て
- ↑
- ・対象児の一日の動きの観察
- ・研究保育後の協議、事後検証

省察 幼児理解

視 点

- ・多様な動きを経験する機会を園生活全体(遊び・生活)で捉える。
- ・好きな遊びの時間と一斉活動の時間を効果的に組み合わせる。



- ・日々の教育活動
- ・研究保育

- ・週日案
- ・環境構成、教材研究
- ・研究保育指導案